



携帯電話端末用インターネットメールゲートウェイ

xGate 3.5.2/3.7

インストールガイド

UNIX 版

2008 年 9 月 8 日 第 12 版

株式会社オレンジソフト

Orangesoft

改訂履歴

[illegible]

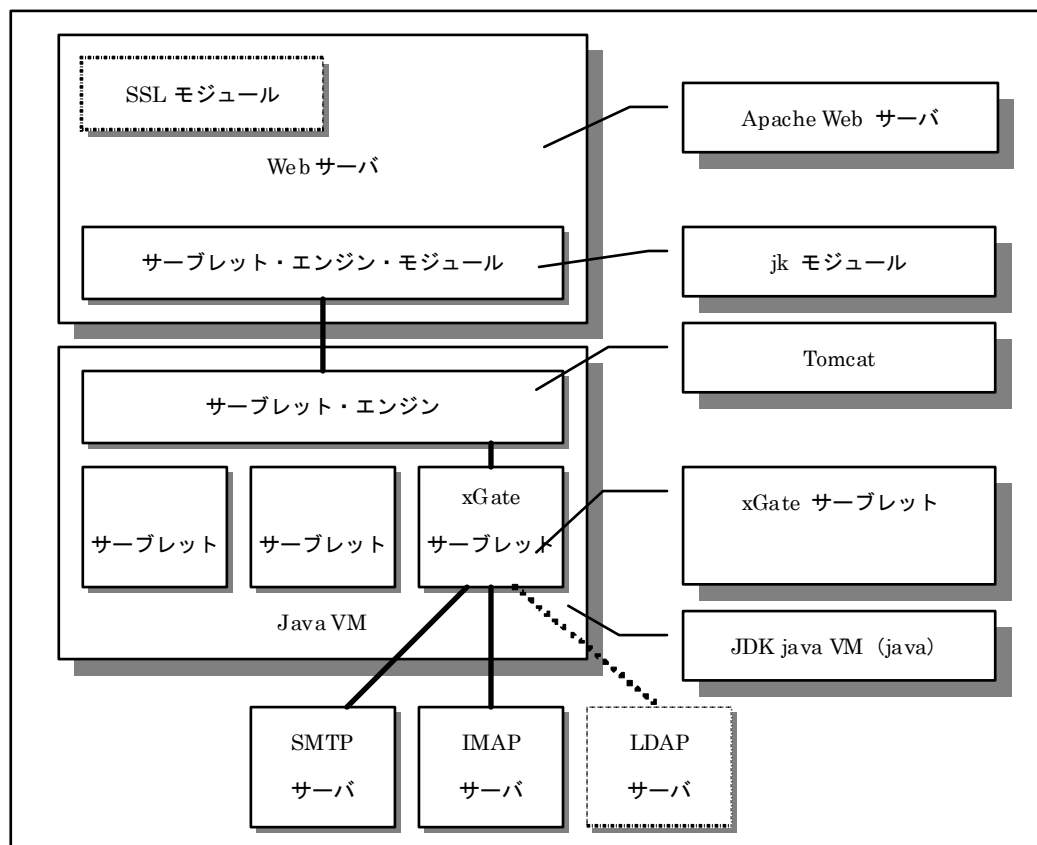
1. はじめに

xGate は、i モード (NTT DoCoMo)、EZweb (au)、Yahoo!ケータイ(ソフトバンクモバイル)等に対応した携帯電話端末及び PC 用インターネットメールゲートウェイです。

xGate をご導入頂くことにより、携帯電話端末や PC から通常ご利用されているメールサーバにアクセスすることが可能になります。

xGate は、サーバ上で動作する Java サブレット・プログラムで、携帯電話端末や PC からは Web サーバ、サブレット・エンジンを介してアクセスされ、SMTP および IMAP サーバとやりとりしたメールをゲートウェイします。

下図は、xGate の動作環境の一例を示したものです。



このドキュメントでは、xGate パッケージのインストール手順を説明します。想定している技術レベルとして、unix/Linux および Web サーバのシステム管理一般が行える事を前提としています。個々の unix/Linux のコマンドなどは OS のオンラインマニュアルや販売されている書籍などを参考にしてください。

インストールが完了したら、「管理者ガイド」、「ConfigSetup ガイド」を基に、ライセンス登録、メールサーバ環境の設定、ユーザ環境等の設定を行って下さい。

2. インストールをはじめる前に

2.1. 動作環境

xGate は、以下の OS に対応しています。

- ・ Solaris
- ・ Linux

また、上記の対応 OS に加え、事前に以下の環境を整備しておく必要があります。

- ・ Web サーバ + サブレットエンジン
 - ・ Apache + Tomcat
- ・ Java
 - ・ [3.5.2] Java2
 - ・ [3.7] Java SE 6
- ・ Apache 1.3.9 以上 (1.3.12 以上推奨) もしくは Apache 2.X
- ・ [3.5.2] Tomcat 4.1.x (4.1.27 以上必須)
- ・ [3.7] Tomcat 6.X
- ・ [3.5.2] J2SE (JDK) 1.4 (1.4.2 推奨)
- ・ [3.7] Java SE 6

xGate は WAR (Web ARchive) 形式で提供されています。WAR 形式のファイル自動展開の機能を使用しない場合には、手動にて設定を行ってください (ただし、動作の保証は致しかねます)。

2.2. オペレーティングシステムの要件

Solaris

デフォルトでは、Solaris のカーネルや TCP/IP のパラメータは Web サーバ用に最適化されていませんので、環境に応じてチューニングする必要があります。

ファイルディスクリプタ

プロセスがオープンできるファイルディスクリプタの制限です。/etc/system というファイルに以下の二行を追加して、システムを再起動して下さい。

```
■ set rlim_fd_max=4096
```

```
■ set rlim_fd_cur=1024
```

TCP のチューニング

ソケットが再利用可能になるまでの時間です。/etc/rc2.d/S69inet ファイルに下記のコマンドを追加して、システムを再起動して下さい。

Solaris 7 および 8

```
■ ndd -set /dev/tcp tcp_time_wait_interval 60000
```

Solaris 2.6 以下

```
■ ndd -set /dev/tcp tcp_close_wait_interval 60000
```

2.3. オプション・パッケージに関して

従来の LDAP オプション、OTP (Radius) オプション、Office 文書モジュール、及び着信通知モジュールは、xGate 3.0 パッケージ製品から全て含まれるようになりました。従いまして、基本パッケージをインストールした後に、オプションパッケージをインストールする必要はありません。これらのオプションの設定に関しましては、「ConfigSetup ガイド」をご参照下さい。

2.4. ライセンスコードに関して

xGate 3.0 から、基本パッケージに含まれている評価版ライセンスコードに、使用期限 30 日の制限がつけました。既に製品版ライセンスをお持ちのお客様は、メジャーバージョンアップ毎に発行されるライセンスコードを再設定して頂く必要があります。

2.5. サインオン方法の変更に関して

xGate 1.3 より、サインオン方法が変更になりました。

従来のバージョンでは、ユーザ登録の際、携帯電話にサインオン・サイトの URL を通知し、ユーザは携帯電話からそのサイトにアクセスし、サインオンの操作（本キーコード、本パスワードの設定）を行うという方法をとっていましたが、xGate 1.3 からは、URL 通知を PC に対して行い、PC Web ブラウザからサインオン操作を行うように変更になりました。

尚、xGate をご利用頂き、既に従来のサインオン方法による運用が浸透してしまっているお客様、また Web 管理画面をユーザに開放されたくないお客様に対して、従来のサインオン方法も引き続きご提供しております（ただし、従来のサインオンをご利用される場合、設定する必要があります）。

2.6. Tomcat に関して

Apache は HTTP リクエストを処理する部分は、設定ファイルで指定した権限（デフォルトではセキュリティのため大抵の場合 nobody）で動作しています。Tomcat は起動したユーザの権限で動作するため問題があります。ここでは、Apache と同じように nobody 権限で Tomcat を起動する方法を簡単に説明します。環境によってパス等は異なりますので、適宜読み替えて下さい。

(1) webapp, log, work ディレクトリと conf 下ファイルの所有者を nobody に変更

```
# chown nobody -R $TOMCAT_HOME/logs
# chown nobody -R $TOMCAT_HOME/webapps
# chown nobody -R $TOMCAT_HOME/work
# chown nobody -R $TOMCAT_HOME/temp
# chown nobody $TOMCAT_HOME/conf/*.conf
# chown nobody $TOMCAT_HOME/conf/*-auto
```

(2) 起動スクリプトで nobody 権限で tomcat 自動起動/停止するように設定

```
su - nobody -c "export PATH=$PATH:$JDKPATH/bin:/usr/bin/tomcat start"
```

```
su - nobody -c "export PATH=$PATH:$JDKPATH/bin:/usr/bin/tomcat stop"
```

2.7. Tomcat と Apache の連携

xGate は Tomcat 上で JSP/サーブレットとして動作しますが、Web サーバ全体のパフォーマンス向上のために、Tomcat と Apache を連携させて動作させる事を推奨します。そのためには、Tomcat-Apache コネクタのインストールが必要です。Apache 2.2.X を使用する場合には、付属の mod_ajp_proxy を使用することが可能です。

このコネクタに jk と呼ばれるモジュールを使用した場合には、以下の設定が必要です。

httpd.conf (Apache の設定ファイル) に以下の設定を追加してください。

LoadModule	jk_module	modules/mod_jk.so
JkWorkerProperty	worker.list=ajp13w	
JkWorkerProperty	worker.ajp13w.type=ajp13	
JkWorkerProperty	worker.ajp13w.host=localhost	
JkWorkerProperty	worker.ajp13w.port=8009	
JkMount /xgate/*	ajp13w	

この指定によって、xGate へのアクセスが Apache より Tomcat に渡されます。

この設定が終わった後は、Apache を再起動してください。

3. アプリケーションの展開

インストールは、root 権限で行わなければなりません。

まず、root でログインするか、su(1) を実行して下さい。

```
# su root
Password:
```

次に、Tomcat のアプリケーション・ディレクトリにファイル xgate.war を配置してください。Tomcat によりアプリケーションの展開が自動的行われます(例は、Tomcat が /usr/local/tomcat/ にインストールされている場合)。

```
# cp xgate.war /usr/local/tomcat/webapps/
```

4. 各種設定

アプリケーションの展開が終了したら以下の設定を行って下さい。

4.1. 「環境設定」の実行

下記の URL にアクセスし、メニューから「環境設定」を選択して、SMTP、IMAP サーバ、FQDN 等の設定を行って下さい。

<http://<ServerName>/xgate/>

尚、詳細はオンラインヘルプ、または「ConfigSetup ガイド」をご参照下さい。

4.2. 「アカウント管理」の実行

下記の URL にアクセスし、メニューから「アカウント管理」を選択して、ユーザ・アカウントの作成を行って下さい。

<http://<ServerName>/xgate/>

尚、詳細はオンラインヘルプ、または「管理者ガイド」をご参照下さい。

4.3. 「環境設定」、「アカウント管理」のアクセス権の設定

インターネット上から上記の「環境設定」、「アカウント管理」へのアクセスを禁止する場合、「環境設定」のセキュリティ設定 → アクセス制御設定にて、設定する事が出来ます。

設定について詳しくは、ConfigSetup ガイドをご参照下さい。

5. アプリケーションの再インストール

xGate の旧バージョンからのアップグレードを行う際のファイルの移行方法については、リリースノートを参照してください。

何らかの事由により、xGate の再インストールが必要になった際には、以下の方法で設定済みの環境設定やアカウント情報を移行する事ができます。

以下の作業は xGate (Tomcat) のサービスが停止している状態で行ってください。Tomcat が /usr/local/tomcat/ にインストールされていると仮定します。

5.1. 元の xGate 環境の退避

```
# cd /usr/local/tomcat/webapps/  
# mv xgate xgate.bak  
# mv xgate.war xgate.war.bak
```

複数世代の環境を退避させる場合には、拡張子(例の場合 bak)を必要に応じて変えてください。

5.2. xGate の再インストール

「3. アプリケーションの展開」と同様に xGate を再インストールしてください。ただし、Tomcat が停止していますので、自動展開は行われません。ここで、Tomcat を一度、起動してください。この Tomcat の起動によりアプリケーションの展開が行われます。アプリケーションの展開を確認したら、再度 Tomcat を停止してください。

5.3. 設定ファイルなどの移行

```
# cd /usr/local/tomcat/webapps/  
# cp -p xgate.bak/WEB-INF/conf/xgate.conf xgate/WEB-INF/conf/  
# cp -p xgate.bak/WEB-INF/conf/log.conf xgate/WEB-INF/conf/  
# cp -p xgate.bak/WEB-INF/conf/*.dic xgate/WEB-INF/conf/  
# cp -p xgate.bak/WEB-INF/account/* xgate/WEB-INF/account/  
# cp -pr xgate.bak/WEB-INF/address/* xgate/WEB-INF/address/
```

ここで、xGate を起動すれば、従来の環境を引き継いだままで再インストールした xGate が起動します。